悪性ではなかった膀胱腫瘤の 2 例

◎後藤 寛昭 [1)]、小林 玉宜 [1)]、鈴木 博英 [1)]、小野 佳一 [1)]
東京大学医学部附属病院 [1)]

【はじめに】膀胱内に生じる腫瘤性病変は，大部分が悪性腫瘍で良性腫瘤は数%と極僅かである．尿路上皮癌との鑑別が必要な隆起性腫瘤には，良性腫瘍や異常上皮に分類される疾患がある．超音波検査（以下 US）において，膀胱の良性腫瘤を悪性病変と捉えると患者さんへ深刻な影響を与えてしまう．今回我々は，悪性腫瘍と想定して検査に臨んだが稀な良性病変だった 2 例を経験したので報告する．

【症例 1】60 代　　女性【既往歴】S 状結腸癌【現病歴】血尿・膀胱腫瘤．他情報は予約外 US のため検査時詳細不明．【US 所見】右尿管口近傍に，23×10mm の血流シグナルを伴う広基性隆起性腫瘤を認めた．近傍には，3mm 前後の隆起性腫瘤を 3 個以上認めた．【尿検査所見】潜血 2+，白血球 2+，亜硝酸塩 1+，細菌 3+，沈査に異型細胞を認めない．【血液検査所見】血液学検査，生化学検査，腫瘍マーカーに異常所見を認めない．【CT 所見】膀胱に増強効果を認め，一部腫瘤様のため膀胱腫瘍を疑われた．【膀胱鏡検査所見】頚部右側に広基性腫瘤，右側壁には malakoplakia 様の発赤を認めた．【小括 1】膀胱マラコプラキアは，再発を繰り返す尿路感染症患者に起こりやすく，肉眼的血尿や排尿時痛を有する女性に多いと報告されている．慢性膀胱炎患者の膀胱腫瘤には，癌類似病変が存在することを再認識させられた．【症例 2】30 代 女性【既往歴】乳がん【現病歴】月経時に排尿時痛増悪，潜血あり．婦人科検診で膀胱に腫瘤を指摘された．他院泌尿器科を受診し MRI にて脂肪腫を疑われたが切除ではなく妊娠優先を希望した．【US 所見】左側壁に血流シグナルを伴う 27×18mm の腫瘤を認めた．【CT 所見】膀胱頂部左側に軟部濃度腫瘤があり，内部に小さな嚢胞状の低濃度域を含んでいた．【MRI 所見】点状の fsT1WI 高信号域を含む T2WI 低信号の腫瘤を認め，子宮内膜症に合致した．【尿検査所見】潜血 1+，白血球 3+，亜硝酸塩 －，細菌 1+．【血液検査所見】CA125 52 U/mL【小括 2】周期による痛みの変化を伴う膀胱腫瘤を認めた場合は，異所性内膜症も念頭に置くことを考えさせられた．

【総括】稀な良性の膀胱腫瘤を経験し，初めから癌と決め付けずに検査を行うことが肝要であると再認識させられた．

東京大学医学部附属病院検査部 03-3815-5411 (34182)